

高木議員

教育行政

学校施設耐震化推進計画について伺います。

11月20日の文教経済委員会で、学校校舎の耐震化について、「前倒して実施する考えはない」との旨の答弁でした。

多くの市民から、「学校耐震化を早く」と強い要望があります。

わが党は、11月11日に、文部科学省を訪ね、本市の耐震化推進計画について見解を尋ねて来ました。

政府としては、「子どもの安全を考え、第一に耐震化を進めるべき。」
「いろいろ自治体には、都合があるかもしれないが、第一にやるべきだ」と強い口調で指摘されました。

さらに、福山市教育委員会は、学校統廃合が予定されている校舎の耐震工事を行わない、とのことですが、これについては、「統廃合に関わらず推進するべきだ」とのことでした。

福山市は、耐震化の遅れの理由として、校舎数が多いことと、夏休みに工事が集中することを、挙げてきました。ところが、本市と同規模の校舎を保有する、千葉市は97.1%、浜松市、静岡市で

は100%完了しています。

また、夏休みに工事を集中させるのではなく、プレハブ校舎の設置など、対応策はいくらでもあります。

そこでお伺いします。

福山市の校舎耐震化が、全国と比較しても遅れている理由は、財政課題が理由なののでしょうか。または、「福山市が、災害が少ない」土地柄である、ということが理由なののでしょうか。お示し下さい。

改めて、「福山市耐震化推進計画」を見直し、前倒して校舎の安全確保を優先的に進めることを強く求めます。

以上について、お答えください。

答弁

次に、学校施設の耐震化についてであります。

学校施設の耐震化につきましては、本市の重点政策に位置づけ、計画的に取組を進めているところであります。

本市では、耐震補強工事に当たり運動場の使用が大きく制限されることとなるプレハブ建築を伴う工法は基本的に避け、校舎を使用しながらの工事が可能である、いわゆる「居ながら工事」により、計画的な工事の実施に努めているところであります。

引き続き、学校と丁寧に連携を図りながら、子どもたちの学校環境や学校生活への影響をできるだけ抑えられるよう、工期や工事の時間帯など最大限の配慮をする中で、「福山市学校施設耐震化推進計画」を基本とし、着実に取組を進めてまいりたいと考えております。